

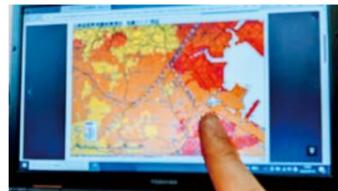
命を守るための備えです
水害に備えましょう

水害は予測できる災害です。
命を守るための備えを一緒に整えましょう！



防災ラジオ、スマホ（LINE、防災アプリ等）、携帯電話（防災メール）、防災無線テレガイド（0296-44-3111）を活用しましょう。

② 避難情報の入手手段確保



鬼怒川洪水、小貝川洪水などのハザードマップがあります。浸水想定区域や浸水継続時間などを確認しましょう。
※市のホームページに掲載しています。

① ハザードマップを確認



避難支援が必要な高齢者や障害のある方への声かけ・避難支援などあらかじめ話し合っておきましょう。

④ 近所で避難の話し合い



市が開設する避難所以外にも、水害の危険のない親戚や知人家、ホテル等への避難についてもあらかじめ考えておきましょう。

③ 避難先を複数箇所検討



台風等の最接近予測時から逆行的に何をするかを計画して、「逃げ遅れを無くす」「被害を少なくする」視点でもタイムラインを作りましょう。
記入する項目の例：「排水溝入口の掃除」「ガソリン満タン」「水・食料品・日用品の買い出し」等

⑥ 我が家のタイムライン



避難所で必要となる最低限のものをリュックに入れておき、「直前に入れるものメモ」をリュックにつけておく。（薬、入歯、メガネ等）避難所には水、食料、毛布以外の備蓄は限定されています。数日間は支援がなくても過ごせるように準備しておきましょう。

⑤ 避難リュックを準備



防災アプリのダウンロードを！

スマホ用防災アプリ



iPhone



android

携帯電話用防災無線放送メール



防災ガイドブックハザードマップ



- 配布場所 市役所3階消防防災課
- 対象者および利用負担額
 - 市内に住所を有する世帯主
 - 1台目 2000円
 - 2台目 5000円
 - 市民税非課税かつ65歳以上のみで構成される世帯の世帯主
 - 1台目 1000円
 - 2台目 4000円

280メガヘルツ防災ラジオを有償配布しています。防災行政無線の放送内容を受信し、聞き直し機能があります。

防災ラジオを活用しよう



2015年9月10日、鬼怒川の堤防が決壊させ甚大な被害をもたらした、常総水害から10年の月日が流れました。この出来事は多くの市民にとって忘れられない経験となり、私たちに大切な教訓を残しています。しかし、時間の経過とともにその記憶は薄れ、被害を知らない世代も増えていきます。

そこで、今一度水害対策について考えてみませんか。防災意識を高め、地域の安全を守るための取り組みを進めていくことが大切です。あなたの一歩が、次の10年をより安心できるものにする力になります。私たち一人一人の防災への取り組みが、地域の安全を守り、未来の安心を築くことにつながります。過去の経験を未来の力に変えるために、防災への取り組みを進めましょう。

警戒レベルに応じた避難行動を知ろう
警戒レベルと避難行動

市が出す避難情報について、内容を正しく理解し、レベルに応じた行動をできるようにしましょう。

警戒レベル	避難情報	避難行動
5	緊急安全確保	命の危険 直ちに安全確保！ すでに安全な避難ができず、命が危険な状況。今いる場所より安全な場所へ直ちに避難する
4	避難指示	危険な場所から全員避難 台風などにより暴風が予想される場合には、暴風が吹き始める前に避難を完了しておく
3	高齢者等避難	高齢者等は避難 高齢者等以外の人も必要に応じ、避難の準備をするなど、自主的に避難する
2	洪水注意報 大雨注意報等（気象庁）	避難行動の確認 ハザードマップなどで自宅等の災害リスクや、避難情報の把握手段を再確認する
1	早期注意情報等（気象庁）	災害の心構えを高める 最新の気象情報に注意するなど、積極的に情報を収集するよう意識する